



平成 30 年 7 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社 不 二 家
代表者名 代表取締役社長 櫻井 康文
(コード番号 2211 東証第一部)
問合せ先 取締役総務人事本部長 中島 清隆
(TEL. 03-5978-8100)

平成 30 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間 業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 30 年 2 月 13 日に公表しました、平成 30 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 30 年 1 月 1 日～平成 30 年 6 月 30 日）の業績予想値と実績値との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 12 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想と実績値の差異

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	5 2, 0 0 0	6 0 0	7 0 0	2 0 0	7 円 7 6 銭
実 績 値 (B)	5 1, 6 2 5	8 8 6	9 8 5	3 9 6	1 5 円 3 8 銭
増 減 額 (B - A)	△ 3 7 4	2 8 6	2 8 5	1 9 6	—
増 減 率 (%)	△ 0. 7	4 7. 7	4 0. 8	9 8. 2	—
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 29 年 12 月期第 2 四半期)	5 1, 5 0 7	2 0 0	3 2 2	△ 7	△ 0 円 2 9 銭

(注) 平成 29 年 7 月 1 日付で普通株式 10 株について 1 株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

第 2 四半期連結累計期間につきましては、売上高は概ね予想通りに推移いたしました。

一方、利益面では当社単体において、菓子事業ではチョコレート製品の拡販に取り組むとともに、主力ブランド強化の施策のもと、製品の開発と販売を積極的に行った結果、主力生産ラインの稼働が促進され、生産性の向上をはかることができました。また、洋菓子事業については不採算店舗や後継者不在店舗の閉鎖を進め、全体としては減収となりましたが、旬の国産フルーツを使用した新製品の発売が好調に推移したことや、広域流通部門の売上高が拡大したことに加え、販売管理費や生産コストの抑制をはかれたことにより、予想を上回る利益を達成することができました。

なお、平成 30 年 12 月期通期連結業績予想につきましては、現時点では平成 30 年 2 月 13 日に公表いたしました業績予想に変更はございませんが、今後の業績推移等を慎重に検討した上で、修正が必要な場合はすみやかに公表いたします。

以 上